佳作　高学年の部

おじいちゃん、ありがとう

秋田県　秋田市立大住小学校　四年　榎　敬将

今年も、待ちに待った夏休みがやってきました。去年、ぼくは肺炎にかかってしまい、二週間も入院して、せっかくの夏休みを台無しにしてしまったのです。それで、今年こそは楽しい夏休みにしたいと思っていました。しかし、いざ夏休みに入ると、お父さんもお母さんも毎日仕事だし、中学生のお姉ちゃんも何かといそがしく、ぼくが思っていたような夏休みとは全然ちがって、少したいくつしていました。

七月の終わりから、八月の初めに暑い日が続いていたころ、同じ市内に住んでいるおばあちゃんが、

「ビニールプールを持っていったら。」

と言いました。それは、ぼくがもっと小さかったころ、今は天国にいるおじいちゃんが買ってくれた、大きな大きなプールのことです。トンネルやすべり台、かいだん、的当てに輪投げもついた最高に楽しいプールです。

おじいちゃんの子どもは二人とも女の子で、ぼくが初めての男の子だったので、生まれたことをとても喜んでくれたのだそうです。そのおかげで、おじいちゃんは、いつもぼくといっしょに遊んでくれました。サッカーや野球、つりにも自転車の練習にもつきあってくれました。おじいちゃんのあぐらの上でごはんを食べることもありました。おじいちゃんは、ぼくのことを、とくべつに「ちゅうこう」だの「豆ぞう」だのとよんで、とてもかわいがってくれました。プールも、きっとぼくを喜ばせようと思って買ってくれたのだと思います。ぼくがようち園に入る前でしたが、おじいちゃんが、あせだくになって、プールに空気を入れてくれたことを覚えています。

おじいちゃんが天国に行ってから七年がたって、ぼくは四年生になりました。ぼくはずいぶん大きくなったけど、七年ぶりにふくらませたプールはやっぱり大きくて、「ぼくのために、すごく大きなプールを買ってくれたんだな。」と、またうれしくなりました。今年はおじいちゃんの代わりに、お父さんが一生けんめい空気を入れて、おかあさんがプールの水に、パパっとバスクリンを入れてくれました。プールの用意ができたら、次は、ふんい気をもりあげるじゅんびです。サンデッキのテーブルの上には、きゅうりバーや冷えたトマトに、ほくほくのジャガイモが並びました。アイスクリームやジュースもあります。気分だけはハワイになりました。

ちょっとたいくつな夏休みも、プールのおかげでとっても楽しくなりました。おじいちゃんは、今でもぼくを楽しませ、喜ばせてくれるのです。ぼくはおじいちゃんが大好きです。おじいちゃん、ありがとう。プールもおじいちゃんとの思い出も大事にしたいと思います。